

東京外国語大学基金
Foundation of Tokyo University of Foreign Studies

活動報告



東京外国語大学基金

Foundation of Tokyo University of Foreign Studies

活動報告

ACTIVITY REPORT

2024

ご挨拶 春名学長	02
武田理事・副学長	03
2024年度 収支報告	04
2024年度 活動報告	05
2024年度 TOPICS	12
ご寄附いただいた方々	13
2025年度 支援事業計画	14
東京外国語大学基金	15



ご挨拶



東京外国語大学長
春名 展生……はるな のぶお

つなぐ、つむぐ、はぐくむ

東京外国語大学基金への支援で世界と日本の未来をひらく——

皆さまに賜りました厚いご支援に心より御礼申し上げます。

人口が縮みゆくなか、いかに人々の生活を破綻させずに社会を維持していくか、しかも、その社会を持続可能なかたちに作り変えていくか。今よりも少ない人数で、かつてない困難な課題に取り組まなければならないのですから、これまでになく一人ひとりの知恵や創造力、社会への貢献が重要になってきます。従来にも増して《人への投資》が求められます。

これまで東京外国語大学は、日本を世界とつなぎ、多文化共生に寄与する人の育成に尽力してきました。それに関連して、多様な留学生の受け入れや在日外国人コミュニティとの交流など、いくつもの事業が皆さまのご支援で実現しました。

今後は、海外から人と知を受け入れて多文化共生を実現するにとどまらず、日本にいる一人ひとりが、自らの能力を最大限に引き出して新たな社会をつむいでいかなければならないでしょう。そのためには、学生時代に多角的に学び、長期的な視野を培い、多彩な経験を積んで大学を卒業していくのがよいでしょう。

これまで以上に《人への投資》が求められる時代、引き続き、皆さまからのご厚情をいただけますようお願い申し上げます。



東京外国語大学理事・副学長
(教育等担当)

武田 千香……ただちか

まずは何よりも、皆さまから賜りました多大なご支援とご理解に、心より感謝申し上げます。皆さまからいただいたご寄附は、学生への奨学金や教育環境の整備、さらには課外活動の充実など、多方面において大きな力となっております。これまでに、国際機関でのインターンシップや海外スタディツアー、国際フォーラムでの研究発表、在日外国人コミュニティでの語劇公演などさまざまな活動を、皆さまのご支援を得て実現してまいりました。こうした取り組みは、学内での学びを社会での実践へとつなげる貴重な機会となり、寄附者の皆さまのお力添えがあってこそ可能となったものです。

本学は、グローバル化が進む今日、そして国内においても多言語・多文化化が加速する時代に、多文化共生社会の実現をめざし、教育と研究の成果を広く社会に還元することを使命としております。皆さまからのご厚情は、その使命を支える力強い後ろ盾です。

今後とも、一層の教育・研究の充実と社会への貢献に努めてまいります。引き続きご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

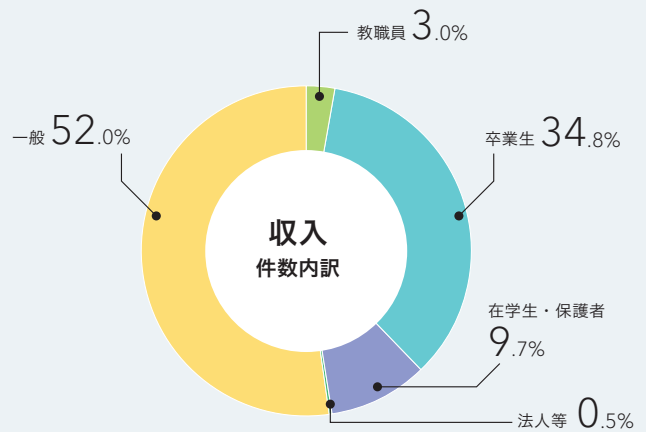
2024 収支報告

● 2024年度 収支決算

2024年度 期首残高	収入額	運用利息	支出額	2025年度 繰越 (円)
483,310,237	87,974,008	361,804	32,806,245	538,839,804

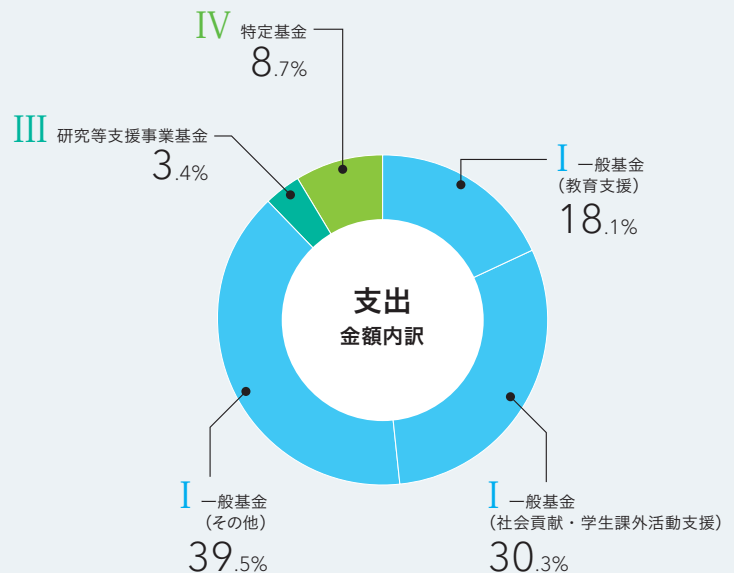
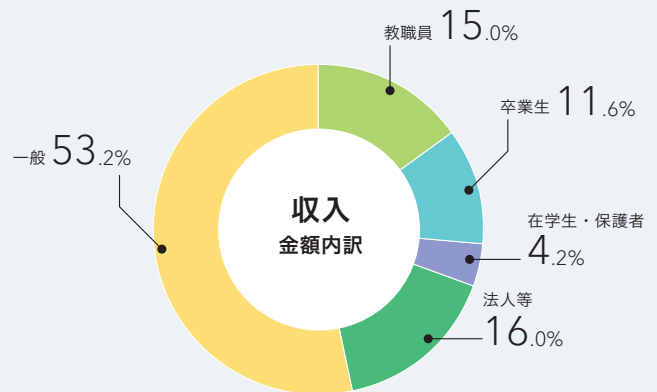
● 収入

区分	件数	金額 (円)
教職員	19	13,169,378
卒業生	222	10,219,331
在学生・保護者	62	3,729,000
法人等	3	14,087,851
一般	332	46,768,448
合計	638	87,974,008



● 支出

区分 主な用途	金額 (円)
I 一般基金 (教育支援) 各種奨学金、国際シンポジウム大学院生派遣旅費 等	5,941,075
I 一般基金 (社会貢献・学生課外活動支援) 課外英語学習・課外活動・進路指導支援 等	9,951,337
I 一般基金 (その他) 100円朝食、大学史編集事業支援、 プロメテウス・ホール舞台各種設備保全 等	12,953,831
II 修学支援事業基金	0
III 研究等支援事業基金 学外研究者交流・キャリア開拓イベント参加支援 等	1,126,493
IV 特定基金	2,833,509
1.人工芝基金 屋外運動場人工芝流出対策	710,000
2.植栽基金 ヤマザクラ、紅梅等植栽工事	638,849
3.附属図書館支援基金 (新設)	0
4.現代アフリカ教育研究支援基金 ザンビア大学からの受け入れ学生旅費支援 等	811,510
5.ベトナム関連教育支援基金 ベトナム語専攻学生の語学研修参加費支援 等	139,500
6.ベルシア語教育研究支援基金 ベルシア語研究室管理業務費	533,650
7.ロシア語教育研究支援基金 (新設)	0
8.端艇部支援基金	0
合計	32,806,245



II：修学支援事業基金……一般基金（教育支援）により各種奨学金の給付等を行ったため、2024年度は執行がありませんでした。

IV：特定基金「8.端艇部支援基金」……執行はありませんでした。

2024年度における基金の具体的な使途（活動）について、次のとおり報告いたします。

I 一般基金



- 外語祭の語劇、シンポジウムや学会で使用するアゴラ・グローバル プロメテウス・ホールの舞台装置、舞台照明及び音響システム等の保全業務を実施するための経費に充てました。
- 『東京外国語大学150年のあゆみ』（通史）および資料編の編集・ウェブ公開作業に係る経費に充てました。
- 「食」の支援として100円朝食、フードパントリー提供食品購入の経費に充てました。
- 学生（日本人学生・留学生）に対する留学支援、具体的には、派遣（ダブルディグリー・プログラム、国連スタディツアー等）や受け入れ（奨学金の支給）に関する経費に充てました。
- 研究に必要なフィールドリサーチを奨励する目的で、PCS学生2名に対して奨学金を支給しました。 ➡ 詳しくはp.06～07へ
- コロンビア大学（米国）で開催された第14回アジア・アフリカ研究教育コンソーシアム（CAAS）国際シンポジウムに参加の大学院生9名のうち5名に対して渡航費の補助を行いました。 ➡ 詳しくはp.08へ
- 外国語（英語）能力の育成のため、TOEIC-IP実施に係る業務補助経費に充てました。
- 英語学習支援センターのプログラムの1つである「ライティングサポートデスク」のアドバイザー謝金に使わせていただきました。 ➡ 詳しくはp.09へ
- 毎年11月に5日間にわたって開催される外語祭の各国料理店や語劇支援のための費用に使わせていただきました。
- 学生相談室やキャリア相談室などの充実に資する経費に使用しました。



外語祭期間中にプロメテウス・ホールで行われる「語劇」の様子



学生に対する「食」の支援の一環として実施したフードパントリーの様子



外語祭での各国料理店。写真はアラビア語専攻の学生

フィールドリサーチを奨励する目的で、PCS学生を支援

現地調査によって論文がより意義のあるものになりました

東京外国語大学大学院でPCSコースを履修している、ウガンダ出身のテンボ・ジャスタスさん。本学の基金による助成を受け2025年に実現したウガンダ内戦地区の現地調査によって、学術的・政策的に大きな意義のある論文を上げることができました。



テンボ・ジャスタスさん

…… Thembo Justus

東京外国語大学大学院 総合国際学研究科 博士前期課程
世界言語社会専攻
Peace and Conflict Studiesコース

Deep in Gulu village, picture taken after an interview with a formerly LRA abducted lady who narrowly escaped with a two month old baby and now lives in isolation.

グル村の奥深くにて、かつてLRA（神の抵抗軍）に拉致された女性へのインタビュー後に撮影された写真。彼女は生後2か月の赤ん坊と共に辛くも脱出し、現在は孤立した生活を送っている。

Conducted interviews with the returnees and the host communities

Between February and March 2025, I was privileged to receive TUFFS research funds and I was able to conduct my MA thesis field research in northern Uganda, Gulu district. This region got entangled in two decades (1986-2005) of turbulent civil wars characterized by rampant inhuman violence and massive abductions of civilians by the LRA rebels (Lords Resistance Army), especially the children.

My research project was about the institutional re-examination of the reintegration process of those returnees, their relations with host communities after two decades of continuous return and reintegration efforts and how Peacebuilding institutions inadvertently shaped their behavior (social distinction) than dismantling them as ought too.

The goal for this field research was to conduct in-depth interviews with both the LRA ex-combatants, the formerly abducted children, the victims, the host communities members, the NGO staffs and government concerned officials. I also did field observations and documentation analysis which was not possible to do while in Japan.

The field research helped me to make my original main argument/ answer to my thesis central question. It showed the consequential relations between post conflict memories and Peacebuilding institutions on reintegration and social relations. The field research and the fund helped me to finish my thesis and MA program and contribute to the academic and policy significance of my thesis.



After interviews at Terra Renaissance- Gulu branch with a formerly abducted man who returned and acquired tillering skills. I bought a shirt and bags from their stock.

テラ・ルネッサンス（グル支部）で、かつて拉致され、帰還後に耕作の技術を習得した男性へのインタビューを終えた後の写真。彼らの在庫からシャツとバッグを購入しました。



拉致帰還者や受け入れ側へのインタビューを実施

2025年2月から3月にかけて、私は東京外国語大学基金による支援を得て、修士研究の現地調査としてウガンダ北部グル地区を訪れました。ここは1986年から2005年までの20年間、LRA（神の抵抗軍）による非人道的な暴力の横行と、特に子どもたちを中心とした民間人の大規模な拉致を特徴とする激動の内戦に巻き込まれた地域です。

この研究では、(1)帰還者の再統合プロセスに対する制度の再検討、(2)20年にわたる継続的な帰還および再統合の取り組みの後ににおける彼らと受け入れコミュニティとの関係の分析、そして(3)本来ならば社会的差異を解消すべき平和構築機関が、意図せずしてその差異を強化し、それが帰還者の行動にどのような影響を与えたのかについて検討することを目的としていました。

現地調査ではLRA元戦闘員、かつて拉致された子どもたち、被害者、受け入れコミュニティの構成員、NGOスタッフ、関係政府職員に対し、詳細なインタビューを実施しました。また、現地視察と日本国内では入手が難しい資料分析も行うことができました。

現地調査は、私の論文の中心的な問いに対する独自の主張や回答を明確にするのに役立ちました。実際に紛争後の記憶と平和構築機関が、社会復帰と社会関係にどのような影響を及ぼしたのか、その因果関係を明らかにすることができました。現地調査とそれを実現してくれたこの基金によるご支援により、修士論文を完成させ、さらには無事に修士課程を修了することができました。そして何より私の論文が学術的そして政策的にも意義のあるものとなりました。



Profile

ウガンダ出身。
2023年東京外国語大学大学院 総合国際学研究科 博士前期課程 世界言語社会専攻 Peace and Conflict Studiesコース入学。2025年10月より同大学院博士後期課程進学。

C O L U M N

世界言語社会専攻

Peace and Conflict Studiesコースとは？

2004年、地域紛争を専門的に研究教育するプログラムとして本学地域文化研究科博士前期課程国際教育専攻に平和構築・紛争予防（PCS）専修コースが開設（2016年より世界言語社会専攻 Peace and Conflict Studiesコースに改組）され、この分野では主導的な役割を果たしてきた。本コースでは紛争・平和構築に関する研究を推進し、国際社会で活躍し、平和構築に寄与する国際的リーダーを養成することを目的としている。

このコースには二つの柱がある。(1)世界各地の諸紛争さらには紛争後の平和構築に関する理論的研究およびPCS研究方法論と(2)各地域の紛争・紛争後の平和構築・危機管理などの事例の実証的研究である。すべての授業を英語で行うことで、世界中の学生に対して、広く教育機会を提供する本コースは、日本国内の大学の中でもユニークな存在であり、昨年コース設置20周年を迎え、現在まで世界70か国以上からの留学生が本コースで学んできた。とりわけ、アフリカなどの紛争当事国からの留学生を積極的に受け入れている。多様なバックグラウンドを持つ世界各地の学生たちが共に学ぶことで、紛争実態の現実に対する共通認識、相互理解をより深め、卒業後に国際的な視座に立ち、世界各地の政府・諸組織、国際機関や国際非政府組織、大学などの教育機関、研究機関などで活躍することを目指している。

PCSコースでは「現場」を重視する方針であることから、修士論文執筆にあたり、フィールドリサーチを奨励している。そして研究実績向上に資するべく、フィールドリサーチの渡航費補助としての奨学金を提供している。フィールドリサーチの結果は修士論文に反映され、実地でしか得られない貴重な知見を学術論文としてまとめることが可能となっている。



これまで本コースを修了した学生の出身国の一例

アフリカ	スーダン、モザンビーク、ウガンダ、シエラレオネ、ルワンダ、ナイジェリア等
アジア	インド、スリランカ、ネパール、モンゴル、ベトナム等
北南米	アメリカ、カナダ、ブラジル、メキシコ、コロンビア等
中東	シリア、レバノン、イエメン、イラン等
欧州	フランス、スペイン、セルビア、ウクライナ、ロシア等

アジア・アフリカ研究教育コンソーシアム（CAAS）国際シンポジウムへ派遣する大学院生を支援

現地の学生たちの切迫感を肌で感じたシンポジウム参加

半年前に大規模な学生デモのあったコロンビア大学での国際シンポジウムに参加した、本学大学院生の名合史子さん。緊張感の残る学内で、現地の学生や研究者との交流を持ち、大きな刺激を受けました。

名合 史子さん …… NAGO Fumiko

東京外国語大学大学院 総合国際学研究所 博士後期課程 2年

ジェノサイドと向き合う大学の現在地

2024年10月、私は東京外国語大学基金の支援を受けて、コロンビア大学で開催されたCAASシンポジウムに参加し、修士論文で扱った、湾岸戦争時の日本の文学者の反戦声明についての報告を行いました。この論争は、1990年代初頭の日本の断片を反映しながらも、今日、イスラエルによるガザ侵攻を前に立ちすくむ知識層の姿とも重なります。質疑では、アメリカの政治・社会状況から1990年代～現代の連続性を捉えるという視点等、今後の課題を得ました。

今回のシンポジウムが「ジェノサイドとは何か、大学は何ができるのか?」というテーマを掲げ、同年4月に大規模な学生デモと警察の介入があったコロンビア大学で開催されたことは興味深いことです。当時、学生たちはイスラエルの軍需企業からの投資撤退を訴え、100名以上

が逮捕されています。

半年が経ったキャンパスには未だ厳重な警備体制が敷かれており、入構には招待状と身分証の提示が求められ、行動規範を記したリンクも送られてきました。学生の行動が大学に与えた影響の大きさ、そして大学に対し異議を唱える可能性のある者を全て「敵」とみなす大学の強固な姿勢に驚きました。

同大学の教員や学生の中には、クフィーヤを身につけ、パレスチナの現状に積極的に言及する者もいました。一方で、複雑な立場から黙認するしかない教員もいるようでした。大学当局にも招待状が送られており、シンポジウムは議論の場を設ける意図があったのだと感じました。

正直なところ、私の報告はシンポジウムのテーマに合わせにいていたと思います。コロンビア大学の学生等が持っているような切迫感を、私は十分に共有できていなかったと痛感しました。「学生として何ができるのか?」「大学は何ができるのか?」という問いを、これからも問い続け、抵抗に繋がりたいです。

COLUMN

CAAS とは?

アジア・アフリカ地域を対象とする研究で世界のトップレベルにある高等教育機関が、アジア・アフリカ地域を対象とした研究・教育活動について連携を強めるため、2007年3月に設立されました。

CAASの共催による国際シンポジウムは、CAAS加盟機関が毎年持ち回りで主催しています。第14回（2024年度）のシンポジウムは、アメリカ・コロンビア大学にて、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催され、本学からは8名の若手研究者が発表を行いました。

若手研究者にとっては、国際シンポジウムでの発表を通じて貴重な経験を得るとともに、世界各国の先端的な研究者や同世代の研究者との交流を深める貴重な機会となっています。



“Absence of Violence: An Examination of Intellectuals’ Opposition to the Gulf War” というタイトルで報告した。写真は報告の様子。



コロンビア大学の入構チェックポイントの様子。この後も建物に入る際に再度チェックポイントがあった。

Interview

ライティングサポートデスク

WSD について 教えてください

ライティングサポートデスク (Writing Support Desk)

学習や研究の成果を より良い形で世界とシェアするために

第二言語使用者にとって英語でのアカデミックライティングは容易ではありません。英語でのレポートや論文を作成する学生にはサポートプログラムが用意されています。運営には、皆様からのご支援が大きく役立っています。

清田 顕子さん …… KIYOTA Akiko

東京外国語大学世界言語社会教育センター特任講師／英語学習支援センター（ELC）コーディネーター

ライティングサポートデスクはどのような指導をしてくれるのですか？

この支援プログラムは、英語アドバイザーと1対1で行われます。文法や語彙のチェックにとどまらず、段落構成や論理展開の改善、文章全体の明確さや一貫性にまで踏み込んだ助言を行っています。

どのように利用するのですか？ 利用者はどのくらいいますか？

本学の学生は誰でも無償で利用でき（学部生優先）、対面またはオンラインが選べます。2024年度は毎週水曜と金曜の午前に3枠、午後に3枠（1枠40分）を設定し、延べ88名が利用しました。ライティングサポートデスクは学生からも高く評価されており、2025年度の現在、ほぼすべての枠が埋まる状況が続いています。2025年度からは英語アドバイザーに対し、初期研修と中間研修を導入しました。

運営において基金はどのように活用されますか？

英語アドバイザーへの謝礼金は基金によって賄われており、そのおかげで学生は無償で高品質なサポートを受けられています。寄附者の皆さまからのご支援は、学生が「第二言語で書く」という挑戦に取り組む大きな支えであり、その成果は、学業はもちろん留学や将来の国際的な活躍へと直結しています。心より感謝申し上げますとともに、今後も引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



アドバイザーによるライティングサポートの様子

C O L U M N

ライティングサポートデスク

WSD とは？

本学の英語学習支援センター（ELC）のプログラムの一つです。授業のレポート、プレゼンテーションやスピーチ原稿、論文要旨、履歴書・カバーレターなど、英語の文章を、英語アドバイザーに見てもらうことができます。本学の学生は誰でも利用でき、アドバイザーのアドバイスを受けながら英語のライティング力を高めることができます。

相談内容の一例

[英文の種類]

- Term papers
- Language class essay assignments
- Presentation scripts and slides
- Graduation theses
- Master's theses
- PhD theses
- Articles for publication
- Research proposals
- Essays for language tests (IELTS)
- Essays for language tests (TOEFL)
- Essays for language tests (EIKEN)
- Essays for language tests (Other)
- Statements of purpose for study abroad

その他

[内容]

- Brainstorming ブレインストーミング
- Grammar 文法
- Clarity and Coherence 明確さと一貫性
- Paragraph Development 段落の発展
- Developing Arguments 議論の展開
- Transitions パラグラフ同士の接続
- Structural Feedback 構造的フィードバック



英語学習支援センター
ライティングサポートデスク（WSD）

III 研究等支援事業基金

- 多文化共創イノベーションリーダー育成プログラム（MIRAI）において実施した学外研究交流・キャリア開拓イベント「山形県高島市スタディツアー」、「大阪大学超域プログラムシンポジウム」、「宮古島ワークショップ」のそれぞれで、大学院生へのイベント参加補助に使用しました。



山形県高島市スタディツアーで、現地の若手起業家の勉強会に参加。地域課題について、意見交換を行いました。

COLUMN

MIRAI とは？

若手研究者の活躍の場を拓いていくことをミッションとして立ち上げられた博士学生支援プログラムです。それぞれの研究活動をより広い社会の文脈の中に位置づけ、アカデミア外の多様なステークホルダーにとっての意味と繋げていくために、フィールドスタディや他大学との交流企画などをフェロースhip生に提供しています。



宮古島ワークショップでの調査風景。チームごとに探究テーマを設定し、インタビュー調査を実施しました。

IV 特定基金

1. 人工芝基金

- 屋外運動場人工芝流出対策に使用しました。

2. 植栽基金

- ヤマザクラ、紅梅等の植栽費用に充てました。

3. 現代アフリカ教育研究支援基金

- クラウドファンディング実施経費やザンビア大学からの受け入れ学生の旅費に使用しました。

4. ベトナム関連教育支援基金

- ベトナム人留学生への奨学金、ベトナム関連の学生ボランティア活動の支援に充てました。

5. ペルシア語教育研究支援基金

- ペルシア語関連文書の整理、ペルシア語イベント開催費に充てました。

2. 植栽基金



梅の苗木の植栽

3. 現代アフリカ教育研究支援基金



交換留学生を見送るフェアウェルパーティーの様子

現代アフリカ教育研究支援基金

アフリカと繋がれる人材の育成を

経済面をはじめあらゆる側面で、今後必要不可欠になっていくと考えられるアフリカとの関係。日本とアフリカを繋ぐことができる人材の育成のために、支援基金の重要性は高まっています。



現代アフリカ地域研究センター
ご寄付のお願い



大学院総合国際学研究院/
現代アフリカ地域研究センター長

武内 進一教授

…… TAKEUCHI Shinichi

Profile

1986年に本学を卒業後、アジア経済研究所で中部アフリカ仏語圏諸国の政治経済を中心として調査研究を行う。アフリカ諸国の政治や紛争、土地問題などが専門。2017年4月より、現代アフリカ地域研究センターのセンター長を務める。

留学生交流会（2024年10月）

現代アフリカ教育研究支援基金の活動の軸は、「アフリカ人留学生を支援する」ことです。アフリカでは急速な人口増が進んでおり、今世紀末には世界人口の約三分の一をアフリカ人が占めると予測されています。人口減少社会の日本とは対照的で、今後の世界情勢を考えれば、この地域との関係を深めることは必要不可欠です。

そのためには「日本をよく知るアフリカ人」、「アフリカをよく知る日本人」の育成が欠かせません。東京外国語大学は、日本で唯一、学部レベルでアフリカ専攻を有しており、アフリカと日本を繋ぐ人材の育成に貢献してきました。

2012年度にアフリカ専攻が設置されて以来、日本人学生がアフリカの大学に留学するようになりました。しかし、近年まで、日本人学生によるアフリカへの留学はあっても、その逆はありませんでした。航空運賃や滞在費など経済的負担のために、アフリカから日本への留学が進まなかったのです。

現代アフリカ地域研究センターの設置（2017年度）を契機として、双方向の留学生交流に向けた努力が重ねられています。企業からのご支援もいただきました。トヨタガーナ社は、ガーナ大学から本学への留学生に対して、年間2名分の航空券を提供してくださっています。矢崎総業やタカオカエンジニアリングからも、ご寄附を頂戴しました。

もちろん本学としても、資金調達に向けた努力をしています。2018年と2020年には、ルワンダから留

学生を招致するために、クラウドファンディングを実施しました。さらに、2020年度には、京都大学と共同で申請した留学生交流促進事業が政府に採択され、5年間の予算が措置されました。このおかげで、2020～24年度に、アフリカ5カ国（ガーナ、ルワンダ、カメルーン、ザンビア、南アフリカ）の6協定校から24人を招致し、31人の本学学生をそれらの国に派遣できました。

この事業が2024年度で終了することから、2024年11月から2025年1月にかけて、再度クラウドファンディングを実施しました。幸い、本学の学生や教職員、そしてOBの皆様などから、268万円ものご寄附をいただきました。このお金は、ザンビア、ルワンダからの2025年度留学生招致に使わせていただきます。

クラウドファンディングをはじめとする個人や企業からのご寄附は現代アフリカ教育研究支援基金で管理し、留学生支援に充てています。アフリカ人留学生の招致は、本学学生をアフリカに派遣するためにも不可欠です。双方向の学生交流を維持するために、本基金の役割は大変重要です。これまでのご協力に心から御礼を申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



留学生交流会（2025年4月）



留学生歓迎ランチ会（2025年4月）

T

学生がのびやかに学び、自らの可能性をより一層広げるために、
学びの環境づくりにも力を入れています。

附属図書館の拡充をはじめとするさまざまな活動に、皆様のご厚意による基金が役立っています。

新設

特定基金

附属図書館支援基金



附属図書館外観



イベント（『アヴァンギャルドとジェンダー』出版記念ブックトーク）の様子



附属図書館内観

本学では、附属図書館が学生の学びを支える場として、時代に即した機能や環境、サービスを整えることを目的に「附属図書館支援基金」を設置しました。学生が本を通じて新しい知に出会い、深く考える体験ができるよう、図書の実加え、展示やブックトークなどの知的交流の機会を広げています。また、グルー

プ学習や個人で声を出しながら学ぶスタイルなど、多様な学びに対応した空間づくりにも取り組んでいます。図書館が、学生一人ひとりの探究を支え、創造的な学びの拠点となるために、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

キャンパス植栽プロジェクトに伴う 植栽基金の活動

2000年に本学が府中市に移転してから、これまで多くの学生や教職員が緑豊かなキャンパスの中で過ごしてきました。緑あふれる開かれたキャンパスは、地域のみなさんも交流や憩いの場所として利用されています。

しかし同時に、内部が腐朽した樹木の倒木なども起こっており、新たな樹木への植え替えなどの維持管理が必要となっています。

2022年度より樹木の植え替え等に資することを目的とした「植栽基金」を活用させていただき、2023年度及び2024年度に桜の植樹をしています。これからも緑あふれるキャンパスを維持するために、皆様のご理解と温かいご支援をいただければと願っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



満開の桜と「植栽基金」で植樹した桜



内部が腐朽した樹木

ご寄附いただいた方からの声

Message



東京外語会理事長
寺田 朗子 様

1975年
本学 フランス語学科 卒業

外語大の同窓会「東京外語会」というのは、現役の学生さんから大先輩までがお互いに心をつないで、自分自身も、そして仲間の力も大きく育てていこうという組織です。若い力に溢れたみなさんの大学生活にも深い関心を持っています。「かつての学舎」と比べると素晴らしく美しい緑に溢れたキャンパスで、元気にしっかり学んでいただきたいと願っています。

みなさんのためにできることは何かしらと思いつつ、日々の学生生活のこと、就職活動のことなど、思い浮かべることができます。そうしたいろいろなことの中で、大切なことがありますね。そう、「腹が減ってはいくさが…」ということ！

そこで今回もこれまでの「100円弁当」「100円朝食」などの流れを受け、「フードパントリー」の形の応援をすることになりました。

今年度は、1回目のフードパントリーを7月に実施。約300食を用意しました。年内にはもう一度トライします。

みなさんにとっても学生生活がより充実した日々になりますように、そして「燃えるためのエネルギー」をより多くゲットできますように応援してゆきたいと思っています。

個人

青柳 正俊	岡田 純	斎藤 弘子	高野 恭子	根塚 幸雄	宮崎 薫
赤塚 紀彦	風見 健史	坂井 和	武内 進一	野口 京香	宮崎 和貴
安藤 修一	片岡 護	坂井 理奈	武野 康行	野原 悠佑	宮原 愛三郎
石川 博樹	加藤 青延	佐久間 隆弥	館 次郎	橋本 文男	明治 洋征
石若 孝幸	加納 永清	作村 直人	中江 恵子	長谷見 敏	山口 登之
伊藤 勝郎	加納 春果	重永 隆	中尾 啓介	秦 眞三	山崎 幸雄
井上 実佳	神谷 寿興	島田 志津夫	中尾 千奈美	服部 隆夫	山崎 孝
井ノ内 紀子	川村 理恵子	菅井 啓祐	中川 健一	東 賢一郎	山田 涉
ウエルスティード 絵美	河原崎 義雄	菅原 邦明	中澤 直子	一杉 しげみ	横山 秀
内海 香織	桑野 孝也	須崎 彰子	中西 啓介	藤田 和巧	横山 正樹
鵜戸 聡	桑原 達郎	鈴木 葵依	中山 幸子	藤本 幸温	吉川 光子
榎田 満蔵	桑原 道夫	鈴木 彩夏	成瀬 智	堀 憲昭	和田 昌親
江籠 孝政	小石 武	鈴木 通江	新美 陽子	堀本 克己	渡邊 玲子
大澤 はるみ	小島 由紀夫	諏訪 夏織	西田 良子	本間 芳光	
大沢 久人	小林 浩樹	清宮 衛	西立野 園子	松田 正美	
大野 政志	小林 正幸	関野 徹	西出 有希	松田 安隆	
岡崎 健一	小松 紘一郎	高田 利彦	西村 由美	三宅 裕之	

会社、法人、団体

一般社団法人 東京外語会
株式会社カワベ
株式会社テレ・ポーズ
教職員共済生活協同組合 大学事業所
斎藤弘子先生退官記念パーティー出席者一同

タカオカエンジニアリング株式会社
東京外国語大学学生後援会
東京外国語大学事務連絡会親睦会
特定非営利活動法人 不惑倶楽部
名港海運株式会社

2025 支援事業計画

2025年度に予定されている支援事業計画について、次のとおり報告いたします。

区分	主な使途	金額（円）
I	一般基金（教育支援） ・ 学生への奨学金支給 ・ 国際シンポジウムへの大学院生派遣旅費 ・ 寄付講座講師謝金 ・ スラヴ文化研究史作成	41,755,000
	一般基金 （社会貢献・学生課外活動支援） ・ 課外活動支援 ・ 外語祭、語劇支援 ・ 学生相談室の充実 ・ 就職指導振興助成 ・ 海外インターンシップ学生派遣支援	
	一般基金（その他） ・ 東京外国語大学基金各種運営費	
IV	特定基金 ・ 各種樹木の植樹 ・ 学生用図書の購入 ・ アフリカからの留学生招致 ・ ベトナム人留学生への奨学金、ベトナム関連の学生ボランティア活動の支援 ・ ペルシア語関連文書の整理、ペルシア語イベント開催費	8,944,298
合計		50,699,298

※上記は年度当初の計画であり、変更される可能性がございます。また、各基金の趣旨・目的を踏まえて、追加で支援事業を行う場合があります。

想いを、次の世代へ—— 遺贈について

将来のご自身の遺産を、本学のために役立ててほしいというお申し出をいただくことが増えています。遺贈を希望される方には、大学が提携銀行をご紹介します。相続財産目録の作成から遺産分割手続きの実施まで、煩雑な手続きを銀行が代行いたします。みなさまの想いは大切にお預かりし、次の世代へ、未来のキャンパスへと、确实につなぎます。

遺産によるご寄附（種類）

遺言によるご寄附（遺贈）

遺贈を希望される方に対して、提携銀行のご紹介をいたします。相続財産目録の作成から遺産分割手続きの実施まで、煩雑な相続手続きを銀行が代行します。

※大学に寄附（遺贈）いただいた財産は相続税の課税対象にはなりません。

相続財産によるご寄附（遺産）

故人の遺志、ご遺族の意思により、相続された財産の一部を東京外国語大学へ寄附することができます。

※相続税申告期間内にご寄附いただければ、大学に寄附いただいた財産について相続税はかかりません。本学が発行する領収証書を申告の際に税務署に提出されることで相続税は免除されます。

香典からのご寄附

故人の遺志、ご遺族の意思により、お香典を東京外国語大学基金へ寄附することができます。ご要望により、本学において、会葬者の方々へのお礼状を作成し、ご遺族の代表の方に送付させていただきます。お香典返しとしてご利用ください。

大学に遺贈いただいた遺産は相続税の課税対象になりません。
遺言によるご寄附をお考えの方は、事前に本学までお問い合わせください。



<https://tufs-fund.jp/how-to-donate/>
東京外国語大学基金HP > ご寄附の方法 > 遺産によるご寄附

東京外国語大学基金

あなたの支援が、TUFSを未来につなぐ
— 世界と日本、東京外国語大学の未来のために —

東京外国語大学基金では、大きく4つの支援をお願いしております。

4つの支援

本学が諸活動を行う上で、みなさまからのご寄附は欠かせないものとなっております。
本学の未来のために、ご支援賜りますようお願いいたします。

I

一般基金 | 大学の活動を支援する（使途を指定しない）

所得控除

寄附者からの使途を特定されていない寄附金として受け入れ、本学の諸活動を支援するため、教育支援、研究支援、社会貢献・学生課外活動支援の3点の支援に重心を置き、寄附者の方々のご厚意を反映させていただきます。

支援事業

- 国際教育支援
- TUFS多文化共生学生自主企画事業助成
- 若手研究者等の海外研究活動
- 優れた外国人研究者の招聘
- 研究成果の出版活動等助成
- 世界諸地域に関する情報発信
- 国際的なボランティア活動支援
- 課外活動支援

II

修学支援事業基金 | 学生の修学を支援する

税額控除

または

所得控除

経済的理由により修学が困難な学生（日本人学生及び外国人留学生）を支援します。

支援事業

- 海外留学の支援
- 留学生の受け入れ支援
- 給付型奨学金

III

研究等支援事業基金 | 学生等の研究を支援する

税額控除

または

所得控除

学生（大学院生・学部生）やポストク等の“若手研究者”へ研究を支援します。

支援事業

- 公募型プロジェクトにおいて、研究活動に要する費用を負担する事業
- 研究活動の成果を発表するために必要なものを負担する事業
- 異分野の研究者との交流その他の他の研究者又は実務経験を有する者との交流を促進する事業

IV

特定基金 | 次に掲げる本学の特定のプロジェクトを支援します。

所得控除

1.人工芝基金

屋外運動場及びテニスコートにおける人工芝の敷設、更新、維持・管理等を支援します。

2.植栽基金

キャンパスの樹木の維持・管理、植え替え等を支援します。

3.附属図書館支援基金

附属図書館における図書の購入、施設・設備の整備等を支援します。

4.現代アフリカ教育研究支援基金

アフリカからの留学生や、アフリカ地域の研究等を支援します。

5.ベトナム関連教育支援基金

ベトナムからの留学生や、ベトナム地域の研究等を支援します。

6.ペルシア語教育研究支援基金

ペルシア語文化圏からの留学生や、本学のペルシア語文化圏の地域研究等を支援します。

7.ロシア語教育研究支援基金

ロシア言語文化圏の教育研究・社会貢献を支援します。

8.端艇部支援基金

端艇部（ボート部）の活動等を支援します。



ご寄附の手続きはこちらまで

東京外国語大学基金 <https://tufs-fund.jp/>



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

お問い合わせ先

東京外国語大学 総務企画課 基金担当
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

TEL : 042-330-5126

FAX : 042-330-5599

Email : tufs-fund@tufs.ac.jp

<https://tufs-fund.jp>

